1日目　11月12日（木）

第1会場　3F　ホール

開会式　10：55～11：00

レジェンドビデオセッション1　11：00～12：00

司会：小嶋 一幸（獨協医科大学　上部消化管外科学）

LV1-1　開腹胃切除における左手の役割

佐野　武
がん研究会有明病院　名誉院長

司会：瀧口 修司（名古屋市立大学大学院　医学研究科　消化器外科学）

LV1-2　開腹による拡大手術から学ぶもの

寺島 雅典
静岡県立静岡がんセンター　胃外科

要望演題2：高難度胃癌に対するロボット手術の真価　12：00～12：50

司会：熊谷厚志（北里大学医学部　上部消化管外科学）
　　久森 重夫（京都桂病院　消化器センター外科）

R2-1　膵頭十二指腸切除術後の高度癒着例に対する daVinci-SP を用いた残胃全摘術

○伊東 竜哉、小川 宰司、石村　陸、穴澤 貴行
札幌医科大学医学部　外科学講座消化器外科学分野

R2-2　高難度胃癌に対するロボット手術の真価：T4 胃癌の短期・長期成績におけるロボット支援手術の有用性

○永守　遼[1]、小松 周平[1,2]、大橋 拓馬[1]、小西 智規[3]、松尾 久敬[1]、栗生 宜明[1]、生駒 久視[1]、
岡本 和真[1]、塩崎　敦[1]、大辻 英吾[1]

[1] 京都第一赤十字病院　消化器外科
[2] 京都府立医科大学　消化器外科
[3] 京都第二赤十字病院　消化器外科

R2-3　術前化学療法後の cStage II/III 胃癌に対するロボット支援胃切除術

○柴崎　晋[1,2]、松尾 一勲[1,2]、中村 謙一[1,2]、中内 雅也[3]、田中　毅[2]、稲葉 一樹[3]、宇山 一朗[3,4]、
須田 康一[2,5]

[1] 藤田医科大学岡崎医療センター　総合消化器外科
[2] 藤田医科大学　総合消化器外科
[3] 藤田医科大学　先端ロボット・内視鏡手術学
[4] 藤田医科大学　先端外科治療開発共同研究講座
[5] 藤田医科大学　高度情報医療外科学共同研究講座

R2-4　肥満症例の胃癌に対するロボット支援下幽門側胃切除の有用性

○小松　優、田代　愛、青木　真、番場 竹生、會澤 雅樹、中川　悟
新潟県立がんセンター新潟病院　消化器外科

R2-5　「Bulky N」胃癌症例に対するロボットと腹腔鏡の Hybrid 手術の定型化とその有用性

◯ゆう　賢、大畠 慶直、亀井 武志、小林 良平、二木 元典、土師 誠二
蘇生会総合病院　外科

R2-6　ロボット支援食道空腸吻合におけるロボットステープラーの有用性とピットホール

◯渡邉 めぐみ[1]、岡　詠吾[2]、佐藤 真歩[2]、大倉 友博[2]、小川 俊博[2]、堀　直人[2]、勝田　浩[2]、田中屋 宏爾[2]、青木 秀樹[2]
[1] 金沢大学附属病院　消化管外科
[2] 国立病院機構岩国医療センター　外科

ランチョンセミナー 1　12：50 ～ 13：50

司会：瀧口修司（名古屋市立大学病院）

LS1　次世代 Da Vinci（5 & SP）の真価を解き明かす ～上部消化管領域における実践的アプローチと術中機能の活用～

大森　健
大阪けいさつ病院

共催：インテュイティブサージカル合同会社

シンポジウム 1：高度進行胃癌に対する治療戦略①　13：55 ～ 14：45

司会：衛藤　剛（大分大学　消化器外科 / グローカル感染症研究センター）
佐川 弘之（名古屋市立大学大学院　医学研究科　消化器外科学）

SY1-1　多様化する高度進行胃癌に対する治療戦略を考える

◯絹田 俊爾、麻生 爽欧、登坂 昌広、佐藤 弘隆、成田 未和、林　嗣博
竹田綜合病院　外科

SY1-2　上部進行胃癌における鏡視下脾温存脾門リンパ郭清の治療成績

◯早田 啓治、北谷 純也、合田 太郎、冨永 信太、中井 智暉、永野 翔太郎、川井　学
和歌山県立医科大学　外科学第 2 講座

SY1-3　進行胃癌における審査腹腔鏡の適応評価と腹膜病変予測スコアの開発

◯工藤 健介、入野 誠之、小林 亮太、竹中 俊介、須田 寛士、塚原 啓司、添野 孝文、李　基成、速水　克、布部 創也
がん研究会有明病院　胃外科

SY1-4　高度進行胃癌に対するロボット支援手術の真価：高精度低侵襲手術を長期予後へとつなぐ術後回復経路と腫瘍制御経路の重要性

◯小松 周平[1,2]、大橋 拓馬[1]、小西 智規[1]、永守　遼[1]、藤田 悠司[1]、栗生 宜明[1]、生駒 久視[1]、岡本 和真[1]、塩崎　敦[2]、大辻 英吾[1]
[1] 京都第一赤十字病院　消化器外科
[2] 京都府立医科大学　消化器外科





Teleflex、Teleflex のロゴ、Auto Endo5、Hem-o-lok、および Weck は、米国および / またはその他の国におけるテレフレックス社またはその関連会社の登録商標です。
© 2026 Teleflex Incorporated. 無断複写・複製・転載を禁じます。
Teleflex™ Empowering the future of healthcare

SY1-5　胃癌患者における周術期の筋肉量減少を見越した介入対象の同定：多施設共同後ろ向きコホート研究によるプレ筋肉量低下のカットオフ値算出

○松井亮太[1,2]、山本和義[3,4]、黒川幸典[4]、市川大輔[5]、布部創也[2]、亀井　尚[6]、竹内裕也[7]、鍋谷圭宏[8]、比企直樹[9]、土岐祐一郎[4]

[1]金沢大学附属病院　消化管外科
[2]がん研究会有明病院　胃外科
[3]大阪国際がんセンター　消化器外科
[4]大阪大学　消化器外科
[5]山梨大学　消化器外科
[6]東北大学　消化器外科
[7]浜松医科大学　第2外科
[8]千葉県がんセンター　食道・胃腸外科
[9]北里大学　上部消化管外科

シンポジウム2：高度進行胃癌に対する治療戦略②　14：45～15：45

司会：岡部　寛（新東京病院　消化器外科）
　　江原一尚（埼玉県立がんセンター消化器外科）

SY2-1　CEAの変化がConversion手術後の病理学的治療効果と再発に与える影響の検討

○杉田静紀、田中千恵、飯塚彬光、櫻井俊輔、中西香企、清水　大、笹原正寛、宮田一志、江畑智希、神田光郎

名古屋大学医学部附属病院　消化器・腫瘍外科

SY2-2　切除不能進行胃癌のconversion surgeryに対する当院の治療戦略

○藤崎友梨奈、徳永正則、長岐雄志、福尾飛翔、多久和真帆、竹中雄輝、神谷綾子、和田剛幸、林　　勉、瀬戸泰之

国立がん研究センター中央病院　胃外科

SY2-3　ICI時代に期待されるrobotic conversion surgeryの役割

○田中　毅[1]、藤田正博[1]、鈴木和光[1]、梅木祐介[1]、芹澤朗子[1]、中内雅也[2]、柴崎　晋[1]、稲葉一樹[2]、宇山一朗[2,3]、須田康一[1,4]

[1]藤田医科大学　総合消化器外科
[2]藤田医科大学　先端ロボット・内視鏡手術学講座
[3]藤田医科大学　先端外科治療開発共同研究講座
[4]藤田医科大学　高度情報医療外科学共同研究講座

SY2-4　StageIVB胃癌に対するconversion surgeryにおける長期予後の検討

○田中　亮、松尾謙太郎、吉本秀郎、萩原精太、今井義朗、朝隈光弘、李　相雄

大阪医科薬科大学　一般・消化器外科

SY2-5　cStage IVb胃癌に対する化学療法後のconversion手術の治療成績

○上野剛平、川田洋憲

兵庫県立尼崎総合医療センター

SY2-6　胃癌のconversion surgeryにおける手術タイミング決定のための腫瘍マーカーの意義

○中川　登、中村　慶、樋上翔一郎、西上耕平、谷　直樹

JCHO神戸中央病院　外科

Lilly
A MEDICINE COMPANY

スイーツセミナー 1：胃癌治療の最前線
ー周術期から進行・再発まで考える治療戦略ー　16：00 ～ 17：00

司会：岩槻 政晃（熊本大学大学院生命科学研究部　消化器外科学講座）

SS1-1　進行胃がん 1 次治療における薬物療法戦略の再整理
ーバイオマーカー時代の治療選択ー

會澤 雅樹
新潟県立がんセンター新潟病院　消化器外科

SS1-2　集学的治療の進歩と胃癌手術の役割
ー周術期治療から Conversion Surgery までー

黒川 幸典
大阪大学医学部附属病院　消化器外科

共催：小野薬品工業株式会社／ブリストル・マイヤーズ スクイブ株式会社

特別講演　17：05 ～ 17：45

司会：瀧口 修司（名古屋市立大学大学院　医学研究科　消化器外科学）

SP　ロボット支援手術で明らかになった胃癌手術にかかわる微細解剖

篠原　尚
兵庫医科大学　上部消化管外科

優秀演題表彰式・G1 グランプリ表彰式　17：45 ～ 18：00

第２会場　3F　カンファレンスルームＢ

常任世話人会　9：50～10：20

世話人会　10：20～10：50

要望演題１：胃切除後障害の標準化を目指して ー評価法とアウトカム指標の再構築ー ・胃癌手術における周術期管理の最適化　11：00～12：05

司会：阿部 展次（杏林大学医学部　消化器・一般外科）
　　小松 周平（京都第一赤十字病院／京都府立医科大学　消化器外科）

R1-1　胃切除後障害の早期評価指標としてのドレーンアミラーゼ測定の意義

○貝田 佐知子[1]、竹林 克士[1,2]、大竹 玲子[1]、大町 玲雄[1]、新田 信人[1]、森　治樹[1]、谷 総一郎[1]、小島 正継[1]、前平 博充[1]、三宅　亨[1]

[1] 滋賀医科大学　消化器・一般外科学講座
[2] 滋賀医科大学医学部附属病院　栄養治療部

R1-2　腹腔鏡下 / ロボット支援下胃切除施行した Stage I 胃癌における Textbook Outcome の臨床的意義の検討

○青山　徹[1,2]、長　晴彦[2]、吉川 貴己[1]

[1] 横浜市立大学医学部　消化管外科学
[2] 東京都立駒込病院　胃外科

R1-3　胃癌・全摘患者の術後栄養障害の病態把握と周術期管理の最適化：短期・長期予後を改善する在宅夜間経腸栄養療法のインパクト

○大川 量雅[1]、小松 周平[1,2]、大橋 拓馬[1]、小西 智規[1,3]、永守　遼[1]、栗生 宜明[1]、生駒 久視[1]、岡本 和真[1]、塩崎　敦[2]、大辻 英吾[1]

[1] 京都第一赤十字病院　消化器外科
[2] 京都府立医科大学　消化器外科
[3] 京都第二赤十字病院　消化器外科

R1-4　胃癌手術の周術期管理を最適化する術前 Prehabilitation の実践 ー何を優先すべきかー

○山本 和義、柳本 喜智、牛丸 裕貴、山本　慧、藤川　馨、惠谷 貴子、工藤 智大、金村 剛志、小林 省吾、宮田 博志

大阪国際がんセンター　消化器外科

R1-5　高齢胃癌患者での治療戦略としての経腸栄養管理

○松山　仁、石田　智、高山 碩俊、佐々木 優、山下 雅史、杢谷 友香子、谷田　司、中田　健、山田 晃正

市立東大阪医療センター　消化器外科

weck
Auto Endo5™
Automatic Hem-o-lok™ Clip Applier
医療機器承認番号：22400BZX00383000　販売名：Hem-o-lok クリップ



Hem-o-lok クリップ ML サイズ 15 発内蔵
アプライヤ先端部分の 3か所でクリップを保持するため、
安定性がより高まります

Teleflex、Teleflex のロゴ、Auto Endo5、Hem-o-lok、および Weck は、米国および / またはその他の国におけるテレフレックス社またはその関連会社の登録商標です。
© 2026 Teleflex Incorporated. 無断複写・複製・転載を禁じます。

Teleflex™
Empowering the future of healthcare

R1-6　噴門側胃切除、食道残胃吻合の術後逆流性食道炎発症のリスク因子について

○新野 直樹、野間 俊樹、川瀬 朋乃、大里 祐樹、岩本 和哉、松下 克則、中島 慎介、鈴木 陽三、
清水 潤三、今村 博司
市立豊中病院　消化器外科

R1-7　胃癌術後合併症予測における NSQIP Surgical Risk Calculator の有用性

○橋本　至、川邉 泰一、風間 慶祐、佐藤　渉、青山　徹、菅野 伸洋、小坂 隆司、湯川 寛夫、
吉川 貴己
横浜市立大学　消化管外科学

R1-8　継続的個別栄養指導による胃切除後体重減少への影響

○國重 智裕、中出 裕士、青木 理子、巽　孝成、辻本 成範、助川 正泰、庄　雅之
奈良県立医科大学　消化器・総合外科

施設代表者会議　12：15 ～ 12：45

ランチョンセミナー 2　12：50 ～ 13：50

司会：瀬戸 泰之（国立研究開発法人　国立がん研究センター中央病院）

LS2　進行再発胃癌治療の Decision Making 実臨床データから考えるキイトルーダ活用法

柳本 喜智
大阪国際がんセンター　消化器外科

共催：MSD 株式会社

G1 グランプリ 1：No.6 領域　13：55 ～ 14：55

司会：三木 友一朗（大阪公立大学大学院医学研究科　消化器外科学）
　　佐藤　怜央（名古屋市立大学大学院　医学研究科　消化器外科学）

GG1-1　小松　優
新潟県立がんセンター新潟病院　消化器外科

GG1-2　佐野 淳一
平塚市民病院　消化器外科

GG1-3　吉田 弥正
国立がん研究センター東病院　胃外科

GG1-4　山本　慧
大阪国際がんセンター　消化器外科（胃）

GG1-5　小野　武
中頭病院　消化器一般外科

GG1-6　鈴木 和光
藤田医科大学　総合消化器外科

Lilly
A MEDICINE COMPANY

G1 グランプリ 2：膵上縁領域　14：55 ～ 15：55

司会：早田 啓治（和歌山県立医科大学　外科学第 2 講座）
　　絹田 俊爾（竹田綜合病院）

GG2-1　小松　優
新潟県立がんセンター新潟病院　消化器外科

GG2-2　佐藤 和磨
国立がん研究センター東病院　食道外科

GG2-3　小野　武
中頭病院　消化器一般外科

GG2-4　新田 大地
竹田綜合病院　外科

GG2-5　鈴木 和光
藤田医科大学　総合消化器外科

GG2-6　小田 豊士
東京科学大学　消化管外科学分野

スイーツセミナー 2　16：00 ～ 17：00

司会：藤原 義之（鳥取大学医学部　器官制御外科学講座　消化器外科・小児外科学分野）

SS2-1　**胃癌患者の栄養障害をどう防ぐか ー便通異常への対応を含めてー**
市川 大輔
山梨大学医学部　外科学講座第一教室

SS2-2　**胃切除後の小腸内細菌異常増殖症**
吉川 貴己
横浜市立大学大学院医学研究科　消化管外科学

共催：ミヤリサン製薬株式会社

一般演題 7：再建法と吻合技術の工夫　17：05 ～ 17：45

司会：平尾 素宏（国立病院機構大阪医療センター　外科）
　　西　正暁（徳島大学　実践地域診療医科学分野）

O7-1　**噴門側胃切除術の再建における胃食道逆流防止機構の有無が術後体重減少に与える影響の検討**
○安福　至[1,2]、加藤　京[2]、山本 一雄[2]、桐山 俊弥[2]、遠藤 真英[2]、松橋 延壽[2]
1 岐阜大学大学院医学系研究科　臨床解剖開発学講座
2 岐阜大学大学院　消化器外科・小児外科学

O7-2　**噴門側胃切除術後の再建方法と吻合部関連合併症に関する検討**
○杉沢 徳彦、鈴木 武文、力山 真樹、平田 祥太郎、野村　尚
山形県立中央病院　外科

O7-3　短期・長期成績とも安定した低侵襲幽門側胃切除術後デルタ吻合を用いたBillroth-I 法

◯松尾 一勲[1]、柴崎　晋[1]、梅木 祐介[2]、芹澤 朗子[2]、中村 謙一[1]、中内 雅也[3]、田中　毅[2]、稲葉 一樹[3]、宇山 一朗[3,4]、須田 康一[2,5]

1 藤田医科大学岡崎医療センター　外科
2 藤田医科大学　総合消化器外科
3 藤田医科大学　先端ロボット内視鏡手術学講座
4 藤田医科大学　先端外科治療開発共同研究講座
5 藤田医科大学　高度情報医療外科学共同研究講座

O7-4　腹腔鏡下噴門側胃切除後の食道残胃吻合における再建法別の短中期成績

◯山本 昌明、竹野　淳、平尾 素宏

国立病院機構大阪医療センター　外科

O7-5　吻合部の緊張軽減と血流確保を重視した腹腔鏡下 Overlap 法食道空腸吻合

◯福田 周一[1]、木村　豊[2]、額原　敦[2]、泉谷 祐甫[1]、酒田 和也[1]、柏崎 正樹[1]、池田 公正[1]

1 大阪はびきの医療センター　消化器外科
2 近畿大学奈良病院　消化器外科

O7-6　ロボット支援下幽門側胃切除術における Braun 吻合を付加しない Billroth II 再建の短期成績と術後体重減少の検討

◯新井 博人、渡邉 卓哉

岐阜県立多治見病院　外科

weck
Auto Endo5™
Automatic Hem-o-lok™ Clip Applier
医療機器承認番号：22400BZX00383000　販売名：Hem-o-lok クリップ



Hem-o-lok クリップ ML サイズ 15 発内蔵
アプライヤ先端部分の 3か所でクリップを保持するため、
安定性がより高まります

Teleflex、Teleflex のロゴ、Auto Endo5、Hem-o-lok、および Weck は、米国および / またはその他の国におけるテレフレックス社またはその関連会社の登録商標です。
© 2026 Teleflex Incorporated. 無断複写・複製・転載を禁じます。

Teleflex™
Empowering the future of healthcare

第 3 会場　3F　カンファレンスルーム A

一般演題 1：ロボット支援手術（導入・アプローチ・成績）　11：00 ～ 11：30

司会：田中　毅（藤田医科大学　総合消化器外科）
　　古川 陽菜（りんくう総合医療センター　消化器外科）

O1-1　ロボット支援下噴門側胃切除における小弯先行アプローチの有用性

◯末次 智成、長尾 成敏、大野 慎也、永田 幸聖、多和田 翔、岩田 至紀、田尻下 敏弘、小森 充嗣、田中 千弘、河合 雅彦
岐阜県総合医療センター　外科

O1-2　胃癌手術におけるロボット支援手術の長期予後の検討

◯葛原 啓太、須知 優介、小笹　悠、嶋村　藍、曽我 耕次、山岡 延樹
京都中部総合医療センター　外科

O1-3　単施設でのロボット支援下噴門側胃切除術と腹腔鏡下噴門側胃切除術の短期・中期成績

◯吉本 秀郎、田中　亮、松尾 謙太郎、今井 義朗、朝隈 光弘、李　相雄
大阪医科薬科大学

O1-4　当科でのロボット支援下胃切除術の短期成績

◯松尾 謙太郎、田中　亮、吉本 秀郎、萩原 精太、今井 義朗、朝隈 光弘、李　相雄
大阪医科薬科大学　一般・消化器外科

O1-5　GPS 高値の低栄養・全身炎症状態の胃癌患者におけるロボット支援下胃切除術の短期成績と侵襲軽減効果

◯佐藤 弘隆、麻生 爽欧、登坂 昌広、雑賀 玲美、田中 晴舟、林　嗣博、萩尾 浩太朗、絹田 俊爾
竹田綜合病院　外科

一般演題 2：残胃癌・GIST・特殊手術　11：30 ～ 12：00

司会：菊池 寛利（浜松医科大学　外科学第二講座）
　　春木 伸裕（トヨタ記念病院　外科）

O2-1　イマチニブ抵抗性胃 GIST に対するホウ素中性子捕捉療法（BNCT）の検討

◯萩原 精太[1]、有馬　純[1]、谷口 高平[1,2]、上田 恭彦[1]、猪俣 陽介[1]、吉本 秀郎[1]、松尾 謙太郎[1]、田中　亮[1]、鈴木　実[3]、李　相雄[1]
1 大阪医科薬科大学　一般・消化器外科
2 大阪医科薬科大学　トランスレーショナルリサーチ部門
3 京都大学複合原子力科学研究所　粒子線腫瘍学研究センター

O2-2　残胃癌に対するロボット支援下手術の手技の工夫

◯澤田 健太郎、樋渡 正樹、鳩山 恵一朗、日景　允、初沢 悠人、北村　洋、三浦 智也、辻仲 眞康、中野　徹、柴田　近
東北医科薬科大学　消化器外科

Lilly
A MEDICINE COMPANY

O2-3　胃 GIST に対する腹腔鏡下胃内手術の手技と治療成績

◯伊丹 偉文、額原　敦、山平 陽亮、三上 希実、土橋 果実、南 壮一郎、小山 啓介、古賀 睦人、
原口 直紹、木村　豊

近畿大学奈良病院

O2-4　残胃癌に対する残胃亜全摘術の短期成績

◯原　尚志、武岡 奉均、原　豪男、北川 彰洋、武田　和、内藤　敦、富原 英生、村上 昌裕、
能浦 真吾、宮本　敦

堺市立総合医療センター　消化器外科

O2-5　胃癌に対する胃局所切除術施行症例の検討

◯川田 純司、山下 晋也、玉川 浩司

日本生命病院　外科

一般演題 3：高度進行胃癌・化学療法・コンバージョン　12：00 ～ 12：30

司会：飯田 通久（山口大学大学院　消化器・腫瘍外科学）
宮井 博隆（刈谷豊田総合病院　消化器外科）

O3-1　Type4 胃癌における腹膜播種および胃切除後予後の予測因子の検討

◯岡　泰州、庄田 勝俊、河口 賀彦、丸山　傑、齊藤　亮、滝口 光一、白石 謙介、古屋 信二、
雨宮 秀武、市川 大輔

山梨大学医学部　外科学講座第 1 教室

O3-2　SOX+Nivolumab 療法後に conversion 手術を施行した Stage IV 胃癌に対する irAE と術中所見を含めた検討

◯成田 未和、麻生 爽欧、登坂 昌広、雑賀 玲美、中山　航、田中 晴舟、佐藤 弘隆、林　嗣博、
萩尾 浩太郎、絹田 俊爾

竹田綜合病院　外科

O3-3　当院における cT4b 胃癌の治療成績の検討

◯山下 裕理、右田 和寛、西岡 歩美、松下　学、北東 大督、吉川 高宏、紙谷 直毅、福岡 晃平、
高　済峯

奈良県総合医療センター

O3-4　胃癌患者へのコンバージョン手術の至適施行時期と化学療法前 StageIV 因子数の重要性

◯石田　怜[1,2]、小松 周平[1]、西別府 敬士[1]、木内　純[1]、今村 泰輔[1]、高畠 和也[1]、小菅 敏幸[1]、
小西 博貴[1]、藤原　斉[1]、塩崎　敦[1]

1 京都府立医科大学　消化器外科
2 京都第二赤十字病院　外科

O3-5　術前化学療法施行胃癌に対するロボット支援下胃切除術の短期成績と周術期治療

◯登坂 昌広、麻生 爽欧、雑賀 珠美、中山　航、田中 晴舟、佐藤 弘隆、林　嗣博、萩尾 浩太郎、
絹田 俊爾

竹田綜合病院

一般演題 4：高齢者胃癌・低栄養・予後予測　13：55 ～ 14：35

司会：入野 誠之（がん研有明病院　胃外科）
　　小関 佑介（静岡県立静岡がんセンター　胃外科）

O4-1　高齢胃癌切除患者の長期予後における GLIM 低栄養と 3 次元腰筋体積指数の意義

○額原　敦、伊丹 偉文、山平 陽亮、三上 希実、土橋 果実、小山 啓介、南 壮一郎、古賀 睦人、
原口 直紹、木村　豊

近畿大学奈良病院　消化器外科

O4-2　高齢者胃癌手術症例における術後合併症独立危険因子の検討

○青山 佳正[1]、衛藤　剛[1,2]、上田 貴威[3]、蔀　由貴[1]、藤田 隼輔[1]、赤木 智徳[1]、二宮 繁生[4]、
柴田 智隆[5]、猪股 雅史[1]

1 大分大学医学部　消化器・小児外科
2 大分大学グローカル感染症研究センター
3 大分大学医学部　総合外科・地域連携学
4 大分大学医学部　医学教育センター
5 大分大学医学部　高度救命救急センター

O4-3　85 歳以上胃癌手術症例における短期成績と術後体重・栄養指標の推移

○和田 遼平、高地　耕、茶山 慶伍、山崎 進哉、和田 隆太郎、竹田　佑、松浦 雄祐、井上　彬、
前田　栄、太田 博文

市立池田病院　消化器外科

O4-4　高齢根治切除不能胃癌に対する化学療法 + 免疫チェックポイント阻害剤の治療成績

○荻須　匠、右田 和寛、西岡 歩美、北東 大督、吉川 高宏、紙谷 直毅、福岡 晃平、金井 大海、
久保 智裕、高　済峯

奈良県総合医療センター　消化器・肝胆膵外科

O4-5　85 歳以上の超高齢者に対する胃癌手術を考える

○藤幡 士郎[1]、井上 右喬[1]、近藤　響[1]、山本 真太郎[1]、横井 佑梨[1]、植松　宏[1]、仲井　希[1]、
越智 靖夫[1]、春木 伸裕[1]、瀧口 修司[2]

1 トヨタ記念病院
2 名古屋市立大学病院

O4-6　高齢胃癌患者における術後合併症の臨床的意義と予後への影響

○松岡 浩平、三木 友一朗、西山 方規、小澤 慎太郎、石舘 武三、米光　健、関　由季、黒田 顕慈、
笠島 裕明、吉井 真美、田村 達郎、澁谷 雅常、豊川 貴弘、前田　清

大阪公立大学大学院医学研究科　消化器外科学

weck
Auto Endo5™
Automatic Hem-o-lok™ Clip Applier
医療機器承認番号：22400BZX00383000　販売名：Hem-o-lok クリップ



Hem-o-lok クリップ ML サイズ 15 発内蔵
アプライヤ先端部分の 3 か所でクリップを保持するため、
安定性がより高まります

Teleflex、Teleflex のロゴ、Auto Endo5、Hem-o-lok、および Weck は、米国および / またはその他の国におけるテレフレックス社またはその関連会社の登録商標です。
© 2026 Teleflex Incorporated. 無断複写・複製・転載を禁じます。

Teleflex™
Empowering the future of healthcare

一般演題 5：術後合併症の予測と管理・対策　14：35 ～ 15：15

司会：武者 宏昭（仙台市医療センター　仙台オープン病院　消化器外科・一般外科）
　　平松 良浩（浜松医科大学　周術期等生活機能支援学講座）

O5-1　食道胃接合部癌に対する食道胃管吻合後の難治性アルカリ逆流性食道炎に対し腹腔鏡下 Roux-en-Y conversion が奏功した 1 例

◯是枝 寿彦、吉村 文博、井上 萌乃、光岡 浩一郎、永田 博美、橋本 恭弘、島岡 秀樹、山田 哲平、長谷川 傑

福岡大学病院　消化器外科

O5-2　胃切除後の浮腫性吻合部狭窄に対してステロイド全身投与が奏効した 1 例

◯森脇 楓子、浦川 真哉、杉本 智樹、野村 雅俊、深田 唯史、野口 幸藏、團野 克樹、平尾 隆文、関本 貢嗣、岡　義雄

箕面市立病院　外科

O5-3　胃切除後膵液瘻の現状とドレーンアミラーゼ値に基づく重症膵液瘻予測因子の検討

◯木村 聡志、市川 大輔、河口 賀彦、庄田 勝俊、丸山　傑

山梨大学医学部附属病院　第一外科

O5-4　当科で経験した Rou-en Y 再建術後の輸入脚症候群の 2 例

◯籠橋 宣彰[1]、原田 幸志郎[1]、齊藤 玲那[2]、庭本 涼佑[1]、二俣 元紀[1]、齊藤 健志[1]、小出 修司[1]、堅田 武保[1]、寺西　太[1]

1 豊川市民病院　消化器外科
2 豊川市民病院　外科

O5-5　噴門側胃切除後に生じた難治性吻合部潰瘍に対し、胃体部温存幽門側胃切除が有効であった 1 例

◯古川 陽菜、横内　隆、井上 卓哉、吉村 大士、小川 久貴、大村 仁昭、三宅 正和、種村 匡弘

りんくう総合医療センター　消化器外科

O5-6　胃切除後腹腔内液体貯留に対する IVR を用いたドレナージ

◯三木 友一朗、吉井 真美、黒田 顕慈、田村 達郎、豊川 貴弘、前田　清

大阪公立大学大学院医学研究科　消化器外科学

一般演題 6：減量代謝手術・医療教育・周術期管理・長期的ケア・在宅栄養・救急 / 偶発症例　15：15 ～ 16：00

司会：佐野 彰彦（群馬大学大学院　総合外科学講座　消化管外科学）
　　樋口　格（北里大学　上部消化管外科学）

O6-1　胃癌ロボット支援手術における医学生第二助手参加の安全性と教育的意義

◯鳩山 恵一朗、日景　允、樋渡 正樹、初沢 悠人、澤田 健太郎、三浦 智也、北村　洋、辻仲 眞康、中野　徹

東北医科薬科大学医学部　外科学第一教室（消化器外科）

Lilly
A MEDICINE COMPANY

O6-2　当科における若手医師、看護師、学生に対する胃外科の教育法「Realtime Power Point 供覧法」

◯鈴木 幹人、櫻澤 信行、萩原 信敏、向後 英樹、小森 啓正、松田 明久
日本医科大学付属病院　消化器外科

O6-3　胃全摘後の高度低栄養に対し、患者に寄り添う長期的支援が奏効した 1 例

◯服部 正嗣、林　正吾、多代　充、末永 雅也、折原 由依、中村 雄悟、袴田　紘、坪井 拓磨、田嶋 久子、小寺 泰弘
国立病院機構名古屋医療センター　外科

O6-4　十二指腸水平脚狭窄に対し腹腔鏡下十二指腸空腸バイパス術を施行し良好な経過を得た 1 例

◯小川　敦、平野 貴佐雄、大橋 裕介、梅田 孝旺、滝田 純子、増田 典弘
国立病院機構宇都宮病院

O6-5　原因不明の巨大胃潰瘍穿孔に対し緊急で腹腔鏡下幽門側胃切除を施行し救命し得た 1 例

◯戎井　遼、新野 直樹、野間 俊樹、川瀬 朋乃、今村 博司、松下 克則、中島 慎介、鈴木 陽三、清水 潤三、冨田 尚裕
市立豊中病院

O6-6　胃全摘、脾摘後に腎嚢胞感染した 1 例

◯秋元 佑介、石井 賢二郎、萩原 令彦、桐林 孝治、榎本 俊行、浅井 浩司、長田 拓哉、斉田 芳久
東邦大学医療センター大橋病院　外科

O6-7　胃全摘後 10 年の経過で経口摂取量が緩徐に減少し PTEG 在宅栄養管理中の 1 例

◯大木 圭一朗[1]、衣笠 章一[1,3]、川西 正敏[2]、折田 沙穂[1]、浅田 さくら[1]、服部 航士[1]、構　尚子[3]、福山 康代[3]、佐竹 信祐[1,3]
1 公立宍粟総合病院　外科
2 公立宍粟総合病院　内科
3 公立宍粟総合病院　NST

一般演題 8：周術期栄養管理・QOL 評価　17：05 ～ 17：45

司会：會澤 雅樹（新潟県立がんセンター新潟病院　消化器外科）
　　小西 博貴（京都府立医科大学　消化器外科）

O8-1　早期胃癌治療後の長期予後 －ESD と胃切除および胃切除術式別の検討－

◯國府田 華子、井上 健太郎、山本 宣之、俊山 聖史、張野 誉史、小塚 雅也、佐藤 琢爾、山崎 誠
関西医科大学　上部消化管外科

O8-2　胃亜全摘術の術後栄養における有用性の検討

◯吉田 雄亮[1]、前澤 幸男[1,2]、植野 広大[1]、近藤 裕樹[1]、渡邊 勇人[1]、佐藤　渉[2]、青山　徹[2]、小坂 隆司[2]、佐藤　勉[1]、吉川 貴己[2]
1 横浜市立大学附属市民総合医療センター　消化器病センター外科
2 横浜市立大学附属病院　消化管外科

O8-3　幽門側胃切除術後 1 か月の主食摂取状況とその後の体重減少との関連

◯石井 梨絵[1]、山尾 尚子[1]、茂呂 浩史[2]

1 昭和医科大学藤が丘病院　栄養科
2 昭和医科大学藤が丘病院　消化器・一般外科

O8-4　腹腔鏡補助下幽門保存胃切除術後の栄養状態に関する検討

◯小坂 隆司[1]、佐藤　渉[1]、田　鐘寛[1]、橋本　至[1]、風間 慶祐[1]、川邊 泰一[1]、青山　徹[1]、湯川 寛夫[1]、佐藤　勉[2]、吉川 貴己[1]

1 横浜市立大学医学部　消化管外科
2 横浜市立大学市民総合医療センター　消化器病センター外科

O8-5　胃切除後合併症における PTEG の有用性

◯加来 秀彰、佐々木 亨、田中 侑哉、磯邉 太郎、石橋 生哉、藤田 文彦

久留米大学　外科学講座

O8-6　SSPPD 後食道胃接合部癌に対するロボット支援下残胃温存・逆蠕動性胃管間置再建の 1 例

◯椿山 正哉[1]、山下 好人[1]、松浦 正徒[2]、佐倉 悠介[2]、寺脇 平真[2]

1 岸和田徳州会病院　外科
2 日本赤十字社和歌山医療センター　消化器外科

weck™
Auto Endo5™
Automatic Hem-o-lok™ Clip Applier
医療機器承認番号：22400BZX00383000　販売名：Hem-o-lok クリップ



Hem-o-lok クリップ ML サイズ 15 発内蔵
アプライヤ先端部分の 3 か所でクリップを保持するため、
安定性がより高まります

Teleflex、Teleflex のロゴ、Auto Endo5、Hem-o-lok、および Weck は、米国および / またはその他の国におけるテレフレックス社またはその関連会社の登録商標です。
© 2026 Teleflex Incorporated. 無断複写・複製・転載を禁じます。

Teleflex™
Empowering the future of healthcare

2日目　11月13日（金）

第1会場　3F　ホール

モーニングセミナー：高位吻合 ー職人技を再現性へー　8：00～8：45

司会：土岐 祐一郎（大阪急性期・総合医療センター）
　　北川　雄光（慶應義塾）

MS-1　金谷 誠一郎
八尾徳洲会総合病院　外科

MS-2　徳永 正則
国立がん研究センター中央病院　胃外科

共催：コヴィディエンジャパン株式会社

シンポジウム3：これから求められる機能温存胃切除①　9：00～10：10

司会：三井　章（名古屋市立大学医学部附属西部医療センター　外科）
　　愛甲　丞（東京逓信病院　ロボット手術センター）

SY3-1　**当科における腹腔鏡補助下噴門側胃切除における再建の工夫：台形トンネル法**

○櫻澤 信行、萩原 信敏、向後 英樹、鈴木 幹人、小森 啓正、松田 明久
日本医科大学付属病院　消化器外科

SY3-2　**噴門側胃切除後食道胃吻合部：EG-PRIME 法における逆流防止機構の再建：24時間 pH モニタリングと食道内圧測定による評価と術後逆流性食道炎の長期成績**

○安田　篤[1]、中西 智也[1]、好田 匡志[1]、平木 洋子[1]、加藤 寛章[1]、白石　治[1]、新海 政幸[1]、今野 元博[1]、木村　豊[2]、安田 卓司[1]

1 近畿大学医学部　外科　上部消化管部門・内視鏡外科部門
2 近畿大学奈良病院　外科

SY3-3　**胃上部・接合部癌に対する根治性・安全性・QOL 維持のための噴門側胃切除の創意工夫：Non-Flap 法と SMART 法の開発と短期・長期成績**

○大橋 拓馬[1,2]、小松 周平[1,2]、小西 智規[3]、永守　遼[1]、市川 カノン[1]、栗生 宜明[1]、生駒 久視[1]、岡本 和真[1]、大辻 英吾[1]、塩崎　敦[2]

1 京都第一赤十字病院　消化器外科
2 京都府立医科大学　消化器外科
3 京都第二赤十字病院　消化器外科

SY3-4　**当科における噴門側胃切除術後，ダブルトラクト再建の工夫**

○飯塚 彬光、田中 千恵、笹原 正寛、中西 香企、杉田 静紀、清水　大、宮田 一志、神田 光郎
名古屋大学大学院　医学系研究科　消化器外科学

SY3-5　**術後体重減少を抑制するための噴門側胃切除術後 double tract 再建の工夫：NI-shaped anastomosis**

○谷口　礼、松井 亮太、道傳 研太、林　憲吾、齋藤 裕人、渡邉 めぐみ、辻　敏克、山本 大輔、木下　淳、稲木 紀幸
金沢大学附属病院　消化管外科

Lilly
A MEDICINE COMPANY

SY3-6　これから求められる噴門側胃切除後の再建法 －食道残胃デルタ吻合（EG-delta）の手技と成績

◯川田 洋憲、上野 剛平、蓑島 優奈、大西 悠太、森本 晃平、座覇 理子、西村 健太、金田 航亮、粟根 健人、沈　由剛

兵庫県立尼崎総合医療センター

SY3-7　ロボット時代に再考する食道胃接合部癌に対する機能温存胃切除 －縦隔内操作の定型化と観音開き法再建－

◯田中 侑哉、磯邉 太郎、加来 秀彰、佐々木 亨、大地 貴史、吉田 武史、森　直樹、石橋 生哉、久下　亨、藤田 文彦

久留米大学医学部　外科学講座

シンポジウム４：これから求められる機能温存胃切除②　10：10～11：20

司会：木村　豊（近畿大学奈良病院　消化器外科）
黒川 幸典（大阪大学　消化器外科）

SY4-1　機能温存手術のゴール －センチネルリンパ節生検誘導胃切除の最適解は、局所切除か分節切除か？

◯木南 伸一[1]、岡本 浩一[1]、富田 泰斗[1]、稲木 紀幸[2]、高村 博之[1]

1 金沢医科大学　一般・消化器外科学
2 金沢大学　消化管外科

SY4-2　噴門側胃切除後の再建方法の違いは残胃排出能に影響を与えるか？ －シンチグラフィーによる残胃運動機能評価－

◯中村 達郎[1]、村上 幹樹[1]、晃野 秀梧[1]、北條 雄大[1]、中尾 英一郎[1]、倉橋 康典[1]、北島 一宏[2]、富田 寿彦[3]、篠原　尚[1]

1 兵庫医科大学病院　上部消化管外科
2 兵庫医科大学病院　放射線科
3 兵庫医科大学病院　消化管内科

SY4-3　胃を最大限に温存するロボット支援下胃局所切除併用定型的リンパ節郭清術（GLAND）の技術的工夫と今後の展望

◯三ツ井 崇司、深沢 豪俊、金城 信哉、添田 成美、清川 貴志、外村 修一、深川 剛生

帝京大学医学部　外科学講座

SY4-4　機能温存を目指したロボット支援幽門保存胃切除術 ～自律神経温存の工夫と腔内胃胃吻合 Pierce-Hybrid 法の導入～

◯石田 道拡、丁田 泰宏、桂　佑貴、吉田 龍一、白川 靖博、松川 啓義

広島市立広島市民病院　外科

SY4-5　胃上部早期胃癌に対する噴門保存胃切除術（CPG）の短期成績と新たな展開

◯金城 信哉、深沢 豪俊、添田 成美、三ツ井 崇司、清川 貴志、外村 修一、深川 剛生

帝京大学医学部附属病院　上部消化管外科

SY4-6　化学療法後に機能温存胃切除を施行した進行胃癌の治療成績

◯吉田 弥正、寺嶋 大貴、辻　貴之、梅宮 亜弓、下永 晃一郎、飯野 眞央、由良 昌大、木下 敬弘
国立がん研究センター東病院　胃外科

SY4-7　プロシージャー・パフォーマンス・マトリックスによる機能温存胃切除の有効性と手技的負担の可視化 ー課題の明確化と克服に向けた取り組みー

◯中田 浩二[1,9]、辻　敏克[2,9]、松下 大輔[3,9]、窪田　健[4]、布部 創也[5,9]、會澤 雅樹[6,9]、田中 千恵[7,9]、木南 伸一[8,9]

1 川村病院　外科
2 金沢大学　消化管外科学 / 乳腺外科学
3 種子島医療センター　外科
4 医誠会国際総合病院　消化器外科
5 がん研有明病院　胃外科
6 新潟県立がんセンター新潟病院　消化器外科
7 名古屋大学医学部附属病院　消化器・腫瘍外科（消化管）
8 金沢医科大学氷見市民病院　一般・消化器外科
9 PGSAS ワーキンググループ

シンポジウム 5：術後障害対策あらためて考える①　11：20 ～ 12：10

司会：今村 博司（市立豊中病院　消化器外科）
　　坂東 悦郎（静岡県立静岡がんセンター　胃外科）

SY5-1　低侵襲幽門側胃切除術における術後肺炎に対する Hill 分類の臨床的意義

◯永野 翔太郎[1]、北谷 純也[1]、早田 啓治[1]、合田 太郎[1]、冨永 信太[1]、中井 智暉[1]、花田 圭佑[2]、川井　学[1]

1 和歌山県立医科大学　外科学第 2 講座
2 和歌山県立医科大学　医療統計学講座

SY5-2　胃切除後患者における血糖変動と睡眠構造との関連 ーCGM と在宅睡眠脳波による検討ー

◯西別府 敬士、窪田　健、住吉 秀太郎、井上 博之、小菅 敏幸、小西 博貴、藤原　斉、塩崎　敦
京都府立医科大学　消化器外科

SY5-3　持続グルコースモニタリングが明らかにした胃切除後血糖トレンドの時期別変遷と血糖・栄養管理への示唆

◯窪田　健[1,2]、西別府 敬士[2]、大橋 拓馬[2,3]、高畠 和也[2,4]、住吉 秀太郎[2]、井上 博之[2]、小菅 敏幸[2]、小西 博貴[2]、藤原　斉[2]、塩崎　敦[2]

1 医誠会国際総合病院　消化器外科
2 京都府立医科大学　消化器外科
3 京都第一赤十字病院　外科
4 京都第二赤十字病院　外科

SY5-4　胃癌術後障害対策におけるトータルケアの重要性：術前リスク評価から抗炎症対策、低侵襲手術、在宅夜間経腸栄養の創意工夫

◯小西 智規[1]、小松 周平[1,2]、大橋 拓馬[1]、高畠 和也[3]、生内 雅人[1]、永守　遼[1]、谷口 史洋[3]、岡本 和真[1]、大辻 英吾[1]、塩崎　敦[2]

1 京都第一赤十字病院　消化器外科
2 京都府立医科大学　外科学教室消化器外科学部門
3 京都第二赤十字病院　外科

weck
Auto Endo5™
Automatic Hem-o-lok™ Clip Applier
医療機器承認番号：22400BZX00383000　販売名：Hem-o-lok クリップ


Hem-o-lok クリップ ML サイズ 15 発内蔵
アプライヤ先端部分の 3か所でクリップを保持するため、
安定性がより高まります

Teleflex、Teleflex のロゴ、Auto Endo5、Hem-o-lok、および Weck は、米国および / またはその他の国におけるテレフレックス社またはその関連会社の登録商標です。
© 2026 Teleflex Incorporated. 無断複写・複製・転載を禁じます。
Teleflex™
Empowering the future of healthcare

SY5-5　術後障害対策としての周術期リハビリテーション介入による血中 microRNA 濃度変化を介した抗腫瘍効果に関する検討

○金澤 宏恕[1]、木内　純[1]、小松 周平[1,2]、窪田　健[1,3]、井上 博之[1]、西別府 敬士[1]、小菅 敏幸[1]、
小西 博貴[1]、藤原　斉[1]、塩崎　敦[1]
1 京都府立医科大学　外科学教室　消化器外科部門
2 京都第一赤十字病院　消化器外科
3 医誠会国際総合病院　消化器外科

ランチョンセミナー 3：「その一手が術後を変える」 ～胃がん手術の Tips&Troubleshooting ～　12：15 ～ 13：15

司会：深川 剛生（帝京大学）

LS3-1　噴門側胃切除における上川法再建の工夫 ～安全な施行、逆流や狭窄への対策、食道胃接合部癌への応用～

安福　至
岐阜大学

LS3-2　安全かつ確実な胃がん手術を目指した B Ⅱ再建とトラブルシューティング

中内 雅也
藤田医科大学

LS3-3　安全な噴門側胃切除のための郭清と吻合の工夫

佐藤 雄哉
東京科学大学

共催：Johnson&Johnson

第 11 回 PGSAS 勉強会：PGSAS を用いた高感度調査 －どこまで使える？　13：20 ～ 14：20

司会：木南 伸一（金沢医科大学氷見市民病院　一般・消化器外科）
　　山下 裕玄（自治医科大学　消化器一般移植外科）
コメンテーター：中田 浩二（川村病院　外科）

基調講演　PGSAS を用いた高感度調査 －どこまで使える？

木南 伸一
PGSAS ワーキンググループ　代表幹事

PGSAS1　ロボット支援噴門側胃切除術における Circular stapler を用いたダブルフラップ法再建

○夛田 宣裕、下之薗 将貴、有上 貴明、大久保 啓史、野田 昌宏、佐々木 健、大塚 隆生
鹿児島大学　消化器外科

PGSAS2　胃切除術前後の血中胆汁酸値と Postgastrectomy Syndrome Assessment Scale (PGSAS) の関連の検討

○水上 瑛仁、庄田 勝俊、丸山　傑、河口 賀彦、齊藤　亮、滝口 光一、白石 謙介、古屋 信二、
雨宮 秀武、市川 大輔
山梨大学医学部　第一外科

Lilly
A MEDICINE COMPANY

PGSAS3　胃切除術式別にみた術後症状の特徴と生活・QOL への影響 －PGSAS スタディの事後解析から－

◯中田 浩二[1,9]、辻　敏克[2,9]、松下 大輔[3,9]、窪田　健[4,9]、布部 創也[5,9]、會澤 雅樹[6,9]、田中 千恵[7,9]、木南 伸一[8,9]

1 川村病院　外科
2 金沢大学　消化管外科学 / 乳腺外科学
3 種子島医療センター　外科
4 医誠会国際総合病院　消化器外科
5 がん研有明病院　胃外科
6 新潟県立がんセンター新潟病院　消化器外科
7 名古屋大学医学部附属病院　消化器・腫瘍外科（消化管）
8 金沢医科大学氷見市民病院　一般・消化器外科
9 PGSAS ワーキンググループ

シンポジウム 6：術後障害対策あらためて考える②　14：20 ～ 15：00

司会：塩崎　敦（京都府立医科大学大学院　医学研究科消化器外科学）
　　徳永 正則（国立がん研究センター中央病院　胃外科）

SY6-1　食道胃接合部癌に対する下縦隔 y-shaped m-SOFY 再建法の成績と課題

◯西塔 拓郎[1]、黒川 幸典[2]、高橋　剛[2]、萩　隆臣[2]、菅生 貴仁[2]、山下 公太郎[2]、田中 晃司[2]、牧野 知紀[2]、江口 英利[2]

1 大阪大学大学院　臨床腫瘍免疫学
2 大阪大学大学院　消化器外科学

SY6-2　右側横行結腸間膜と膵前面の癒合と腹腔内感染性合併症の関係

◯大坪 琢磨、古川 健一朗、田中　優、服部　卓、大野 優紀、阿部　恭、小関 佑介、藤谷 啓一、谷澤　豊、坂東 悦郎

静岡県立静岡がんセンター　胃外科

SY6-3　胃癌術後中長期にわたる栄養障害の時系列変化と手術関連リスク因子

◯日景　允、藤村 敏行、樋渡 正樹、鳩山 恵一朗、澤田 健太郎、初沢 悠人、北村　洋、三浦 智也、辻仲 眞康、中野　徹

東北医科大学医学部　外科学第一

SY6-4　胃切除術早期体重減少に対する対策：術後早期介入の有効性と長期介入の必要性

◯錦織 達人[1]、上野 剛平[2,10]、平井 健次郎[3]、金城 洋介[4]、山下 好人[5]、金谷 誠一郎[6]、戸田 孝祐[7]、間中　大[8]、畑　啓昭[9]、小濱 和貴[10]

1 京都市立病院　外科
2 兵庫県立尼崎総合医療センター　消化器外科
3 大津赤十字病院　外科
4 公立豊岡病院　外科
5 日本赤十字社和歌山医療センター　消化器外科
6 大阪赤十字病院　消化器外科
7 滋賀県立総合病院　外科
8 京都桂病院　消化器センター・外科
9 京都医療センター　外科
10 京都大学　消化管外科

スイーツセミナー 3：胃癌周術期治療の最適化　15：05 ～ 16：05

司会：藤谷 和正（大阪急性期・総合医療センター　消化器外科）
　　山本 和義（大阪国際がんセンター　消化器外科）

SS3-1　MATTERHORN 試験から示される周術期 ICI の意義

藤谷 和正
大阪急性期・総合医療センター　消化器外科

SS3-2　D-FLOT 時代における栄養運動療法の重要性

山本 和義
大阪国際がんセンター　消化器外科

共催：アストラゼネカ株式会社

要望演題 6：高齢胃癌患者における治療戦略②　16：10 ～ 16：50

司会：大井 正貴（三重大学医学部附属病院　消化管外科）
　　小坂 隆司（横浜市立大学　消化管外科）

R6-1　超高齢胃癌切除症例における術前食事介助の有無は術後生命予後の予測因子となり得るか？

○田中 達也[1,2]、佐藤 菜生[1]、重森 春花[1]、奥山 晃世[1]、山本 誠也[1]、中島　亮[1]、原田 真之資[1]、佐川 弘之[1]、松尾 洋一[1,2]、瀧口 修司[2]

1 名古屋市立大学医学部附属東部医療センター
2 名古屋市立大学

R6-2　高齢胃癌患者への新たな治療戦略：性差と術前血清性ホルモン値に基づく術後合併症・予後リスクの層別化

○濱田 哲司、小松 周平、荒川　宏、西別府 敬士、木内　純、今村 泰輔、小菅 敏幸、小西 博貴、藤原　斉、塩崎　敦

京都府立医科大学　消化器外科

R6-3　高齢胃癌患者に対する栄養指導とリハビリテーションを組み合わせた術後継続介入の有用性

○大久保 友貴、三井　章、藤本 風花、中澤 充樹、加藤　匠、齋藤 正樹、今藤 裕之、安藤 菜奈子、前田 祐三、高橋 広城

名古屋市立大学医学部附属西部医療センター

R6-4　80 歳以上の高齢者胃癌患者における S-1 術後補助化学療法の有用性：多施設共同後方視的研究

○住吉 秀太郎、窪田　健、井上 博之、高畠 和也、西別府 敬士、小菅 敏幸、小西 博貴、藤原　斉、塩崎　敦

京都府立医科大学　消化器外科

weck
Auto Endo5™
Automatic Hem-o-lok™ Clip Applier
医療機器承認番号：22400BZX00383000　販売名：Hem-o-lok クリップ



Hem-o-lok クリップ ML サイズ 15 発内蔵
アプライヤ先端部分の 3か所でクリップを保持するため、
安定性がより高まります

Teleflex、Teleflex のロゴ、Auto Endo5、Hem-o-lok、および Weck は、米国および / またはその他の国におけるテレフレックス社またはその関連会社の登録商標です。
© 2026 Teleflex Incorporated. 無断複写・複製・転載を禁じます。

Teleflex™
Empowering the future of healthcare

R6-5　高齢胃癌患者の外科的治療戦略：トータルケアを重視した治療の創意工夫

○竹田　凌[1,2]、小松 周平[1,2]、小西 智規[3]、西別府 敬ニ[2]、大橋 拓馬[1]、栗生 宜明[1]、生駒 久視[1]、
岡本 和真[1]、塩崎　敦[2]、大辻 英吾[1]

1 京都第一赤十字病院　消化器外科
2 京都府立医科大学　消化器外科
3 京都第二赤十字病院　消化器外科

閉会式　17：00 ～ 17：10

Lilly
A MEDICINE COMPANY

第 2 会場　3F　カンファレンスルーム B

要望演題 3：低侵襲胃切除の新展開 ーロボット多機種時代における現状と未来ー　9：00 ～ 10：00

司会：篠原 健太郎（愛知医科大学　消化器外科）
　　柴崎　　晋（藤田医科大学岡崎医療センター　総合消化器外科）

R3-1　胃癌に対する hinotori 導入初期成績 ー安全な運用のためのピットフォールと工夫ー

◯柳本 喜智、山本 和義、藤川　馨、山本　慧、足立　慧、松浦 記大、百瀬 洸太、金村 剛志、宮田 博志、小林 省吾
大阪国際がんセンター　消化器外科

R3-2　hinotori 胃癌手術導入初期における安全な術野展開の工夫 ーコンソール術者と術野助手の協調ー

◯齋藤 正樹、大久保 友貴、藤本 風花、中澤 充樹、加藤　匠、今藤 裕之、安藤 菜奈子、前田 祐三、高橋 広城、三井　章
名古屋市立大学医学部附属西部医療センター　消化器外科

R3-3　hinotor™ サージカルロボットシステムを使用した胃癌に対する幽門側胃切術除術の安全性に関する臨床的検討

◯中村 謙一[1]、柴崎　晋[1]、松尾 一勲[1]、宇山 一朗[2]、須田 康一[3]
1 藤田医科大学岡崎医療センター
2 藤田医科大学　先端ロボット・内視鏡手術学講座
3 藤田医科大学　総合消化器外科

R3-4　MILAR 法による da Vinci SP を用いたロボット支援下胃切除の導入

◯佐藤　涉[1]、橋本　至[1]、川邊 泰一[1]、青山　徹[1]、小坂 隆司[1]、湯川 寛夫[1]、近藤 裕樹[2]、前澤 幸男[2]、佐藤　勉[2]、吉川 貴己[1]
1 横浜市立大学医学部　消化管外科学
2 横浜市立附属市民総合医療センター　消化器病センター外科

R3-5　ロボット支援下胃切除における多機種運用の初期経験と今後の課題 ー手技移行における課題と独自手法の確立に向けてー

◯荒井 淳一、濱崎 景子、橋本 泰匡、久保 賢太郎、村上 俊介、小林 慎一朗、金高 賢悟
長崎大学　外科学講座　胃食道外科

R3-6　助手型手術支援ロボット ANSUR の段階的導入 ー胃局所切除から幽門側胃切除への展開ー

◯林　祥平、佐藤 怜央、佐川 弘之、高阪 重行、辻　恵理、藤田 康平、伊藤　直、早川 俊輔、小川　了、瀧口 修司
名古屋市立大学大学院医学研究科　消化器外科学

R3-7　幽門輪温存膵頭十二指腸切除術後に生じた胃癌に対してロボット支援下幽門側胃切除術を施行し得た 1 例

◯玉崎 梨花、伊藤 俊一、前田 新介、前田　文、谷　公孝、二木　了、金子 由香、番場 嘉子、小川 真平、山口 茂樹
東京女子医科大学病院　消化器・一般外科

要望演題 4：高齢胃癌患者における治療戦略①　10：00 ～ 10：50

司会：大平 寛典（国際医療福祉大学那須医療センター　外科）
　　河口 賀彦（山梨大学医学部　第 1 外科）

R4-1　80 歳以上胃癌患者に対する低侵襲手術の安全性と治療戦略

◯棚橋 利行、藤林 勢世、田中 秀治、今井 健晴、佐野 仁哉、丹羽 真佐夫、八幡 和憲、佐々木 義之、奥村 直樹、山田　誠

岐阜市民病院　外科

R4-2　80 歳以上高齢胃癌手術例における治療選択と短期成績

◯坊岡 英祐[1,2]、黒田 昂宏[1]、境井 勇気[1]、関森 健一[1]、中村 俊太[1]、羽田 綾馬[1]、曽根田 亘[1]、菊池 寛利[1]、平松 良浩[1,3]、竹内 裕也[1]

1 浜松医科大学医学部　外科学第二講座
2 浜松医科大学医学部　森町地域包括ケア講座
3 浜松医科大学医学部　周術期等生活機能支援学講座

R4-3　高齢者胃癌の術後 1 年生存に関連する予測因子の検討

◯西岡 歩美、右田 和寛、山下 裕理、松下　学、森川　衛、北東 大督、吉川 高宏、紙谷 直毅、福岡 晃平、高　済峯

奈良県総合医療センター　消化器・肝胆膵外科

R4-4　超高齢患者に対する胃癌治療の実情

◯林　嗣博[1]、成田 未和[2]、登坂 昌広[1]、麻生 爽欧[1]、佐藤 弘隆[1]、絹田 俊爾[1]

1 竹田綜合病院　外科
2 竹田綜合病院　臨床研修管理室

R4-5　高齢胃癌患者に対する胃切除術の評価

◯田中 優作、木下 颯花、清水 康博、西村 浩輝、大月 雅也、田中 亜実、小金井 雄太、酒井　淳、薮野 太一、秋山 浩利

横浜市立市民病院　消化器外科

R4-6　80 歳以上の高齢胃癌患者に対する術式選択

◯遠藤 俊治、東田 正陽、堀　昌明、上野 富雄

川崎医科大学　消化器外科学

要望演題 5：胃切後再建法の最適解を探る　10：50 ～ 11：55

司会：田中 千恵（名古屋大学医学部附属病院　消化器・腫瘍外科）
　　黒田 新士（岡山大学　消化器外科）

R5-1　胃十二指腸デルタ吻合におけるダンピング、逆流性食道炎軽減の工夫

◯中川　登、中村　慶、樋上 翔一郎、西上 耕平、谷　直樹

JCHO 神戸中央病院　外科





Teleflex、Teleflex のロゴ、Auto Endo5、Hem-o-lok、および Weck は、米国および / またはその他の国におけるテレフレックス社またはその関連会社の登録商標です。
© 2026 Teleflex Incorporated. 無断複写・複製・転載を禁じます。
Teleflex
Empowering the future of healthcare

R5-2　食道胃接合部癌における胸腔鏡下再建術 ～ダブルフラップ法からトンネル法再建へ～

○小野　武、宮坂　俊、大田多加乃、林　圭吾、卸川智文、砂川宏樹、李　栄柱
中頭病院　消化器一般外科

R5-3　鏡視下噴門側胃切除後の再建方法と吻合関連合併症

○小菅敏幸、西別府敬士、井上博之、住吉秀太郎、小西博貴、藤原　斉、有田智洋、山本有祐、森村　玲、塩崎　敦
京都府立医科大学　消化器外科

R5-4　噴門側胃切除術における再建の工夫と治療成績

○梅宮亜弓[1]、飯野眞央[1]、下永晃一郎[1]、辻　貴之[1]、寺嶋大貴[1]、吉田弥正[1]、由良昌大[1]、佐藤和磨[2]、藤田武郎[2]、木下敬弘[1]
1 国立がん研究センター東病院　胃外科
2 国立がん研究センター東病院　食道外科

R5-5　鏡視下胃全摘術における T 吻合を用いた食道空腸再建の手技と短期成績

○杉村啓二郎、勝山晋亮、湯川芳郎、柳澤公紀、久保維彦、西沢佑次郎、木下　満、岩上佳史、安井昌義、武田　裕
関西労災病院　消化器外科

R5-6　胃全摘後の体重減少・QOL 低下軽減を目指した逆 J 型空腸パウチ再建 －手技と初期成績－

○禰宜田真史、三澤一成、伊藤友一、伊藤誠二、小森康司、木下敬史、山口淳平、檜垣栄治、奥野正隆、安部哲也
愛知県がんセンター

R5-7　高齢化社会での胃切除再建の最適解：進行胃癌におけるロボット支援幽門側胃切除後 Billroth II 法再建の有用性

○生内雅人[1]、小松周平[1,2]、大橋拓馬[1]、小西智規[3]、松尾久敬[1]、栗生宜明[1]、生駒久視[1]、岡本和真[1]、塩崎　敦[2]、大辻英吾[1]
1 京都第一赤十字病院　消化器外科
2 京都府立医科大学　外科学教室消化器外科部門
3 京都第二赤十字病院　消化器外科

R5-8　Billroth II 法再建後、内ヘルニア 3 例から考える挙上空腸 - 横行結腸間膜間隙の予防的閉鎖

○原田真之資[1]、松尾洋一[1]、奥山晃世[1]、山本誠也[1]、中島　亮[1]、渡部かをり[1]、社本智也[1]、志賀一慶[1]、田中達也[1]、瀧口修司[2]
1 名古屋市立大学医学部附属東部医療センター　消化器外科
2 名古屋市立大学病院　消化器外科

Lilly
A MEDICINE COMPANY

ランチョンセミナー 4：ファイバー光源を活用したチューブ先端位置の確認　12：15 ～ 13：15

司会：塩崎 敦（京都府立医科大学大学院　医学研究科消化器外科学）

LS4-1　周術期における経鼻胃管先端位置確認システムの有効活用

山添 大輝
名古屋市立大学大学院医学研究科　麻酔科学・集中治療医学

LS4-2　「動かない胃を、どう使うか」－ 膵臓外科医が考える胃管と医療安全－

松尾 洋一
名古屋市立大学医学部附属東部医療センター　消化器外科

共催：株式会社大塚製薬工場

特別セッション：管理栄養士セッション：
胃外科術後を支える栄養管理 －管理栄養士からの提言－　13：20 ～ 14：10

司会：市川 大輔（山梨大学　第一外科）
　　瀧口 修司（名古屋市立大学大学院　医学研究科　消化器外科学）

SRD-1　胃切除術後長期の体組成および栄養摂取状況の実態

◯河口 麻衣子[1]、志村 果奈[1]、芦川 美希[1]、深川 剛生[2]

1 帝京大学医学部附属病院　栄養部
2 帝京大学　外科学講座

SRD-2　胃切除術患者の周術期栄養管理を支える多職種連携 －管理栄養士の実践と工夫－

◯石井 有理[1]、橋本 泰子[1]、伊藤 俊一[2]、長尾 元嗣[3]

1 東京女子医科大学病院　栄養管理部
2 東京女子医科大学病院　消化器・一般外科
3 東京女子医科大学病院　糖尿病・代謝内科

SRD-3　胃切除後 GLIM 低栄養の改善に関する臨床的特徴の検討

◯後藤 啓太[1]、藤野 滉平[1]、小野 寛道[1]、宮垣 博道[2]

1 国家公務員共済組合連合会大手前病院　栄養管理室
2 国家公務員共済組合連合会大手前病院　外科

SRD-4　胃全摘術後の後期ダンピング症候群に対して食事調整と CGM が有用であった 1 例

◯林　美幸[1]、横内　隆[2]、古川 陽菜[1,2]、種村 匡弘[2]

1 りんくう総合医療センター　栄養管理センター
2 りんくう総合医療センター　消化器外科

SRD-5　胃切除後患者における位相角とタンパク質充足率との関連 －術後 6 か月の栄養状態の検討－

◯北野 貴子[1]、宮崎 奈津美[1]、寺西 絵美[1]、大久保 友貴[2]、三井　章[2]、今枝 憲郎[3]

1 名古屋市立大学医学部附属西部医療センター　栄養管理科
2 名古屋市立大学医学部附属西部医療センター　消化器外科
3 名古屋市立大学医学部附属西部医療センター　内分泌糖尿病内科

SRD-6　胃切除後の体重推移から考える重点的栄養介入の対象とその時期

○吉川 文菜[1]、山田 悠史[1]、矢埜 多恵子[1]、佐川 弘之[2]、三井 真衣[1]、佐世 奈央[1]、佐藤 怜央[2]、
小川　了[1,2]、瀧口 修司[2]

1 名古屋市立大学病院　臨床栄養管理室
2 名古屋市立大学大学院医学研究科　消化器外科学

郭清手技ビデオ 1：No.6 領域　14：10 ～ 14：55

司会：幕内 梨恵（順天堂大学医学部附属順天堂医院　食道胃外科）
　　川田 洋憲（兵庫県立尼崎総合医療センター　外科）

VC1-1　葛原 啓太
京都中部総合医療センター　外科

VC1-2　高畠 和也
京都第二赤十字病院　外科／京都府立医科大学　消化器外科

VC1-3　淺川 哲也
石川県立中央病院　消化器外科

VC1-4　加藤　匠
名古屋市立大学附属西部医療センター　消化器外科

VC1-5　西　智史
大阪市立総合医療センター　消化器外科

VC1-6　梅宮 亜弓
国立がん研究センター東病院　胃外科

スイーツセミナー 4：　15：05 ～ 16：05

司会：竹内 裕也（浜松医科大学　外科学第二講座／浜松医科大学医学部附属病院）

SS4　胃癌のアンメットニーズから考えるチスレリズマブ －臨床エビデンスが示す特徴と可能性－

神田 光郎
名古屋大学大学院医学系研究科　消化器外科学

共催：ビーワン・メディシンズ合同会社

weck™
Auto Endo5™
Automatic Hem-o-lok™ Clip Applier
医療機器承認番号：22400BZX00383000　販売名：Hem-o-lok クリップ



Hem-o-lok クリップ ML サイズ 15 発内蔵
アプライヤ先端部分の 3か所でクリップを保持するため、
安定性がより高まります

Teleflex、Teleflex のロゴ、Auto Endo5、Hem-o-lok、および Weck は、米国および / またはその他の国におけるテレフレックス社またはその関連会社の登録商標です。
© 2026 Teleflex Incorporated. 無断複写・複製・転載を禁じます。

Teleflex™
Empowering the future of healthcare

要望演題 7：肥満手術の現状と課題　16：10 ～ 16：50

司会：井本　博文（東北大学　消化器外科学）
　　井上 健太郎（関西医科大学　上部消化管外科）

R7-1　「スリーブ・プラス」はわが国の減量・代謝改善手術をどう変えるか？ ー Sleeve gastrectomy with Transit Bipartition の導入と短期成績ー

◯井本 博文、上野 知尭、山村 明寛、相澤　卓、岡本 浩二、安田 真理、西條 文人、大沼　忍、
亀井　尚、海野 倫明

東北大学　消化器外科学

R7-2　手術・高用量セマグルチド・行動療法における減量の質と代謝改善効果の比較

◯山口 有輝子[1]、北本　匠[2]、轟　　陸[2]、松本 泰典[1]、早野 康一[1]、藏田 能裕[1]、小野　啓[3]、
横手 幸太郎[4]、前澤 善朗[2]、丸山 通広[1]

1 千葉大学大学院　先端応用外科学
2 千葉大学附属病院　糖尿病・代謝・内分泌内科
3 千葉大学予防医学センター
4 千葉大学

R7-3　当院における肥満手術導入の現状と課題 ー腹腔鏡下スリーブ状胃切除術導入初期症例の検討ー

◯近藤 裕樹[1]、佐藤　渉[2]、畑尾 史彦[3]、布施 雄馬[1]、植野 広大[1]、渡邊 勇人[1]、前澤 幸男[1]、佐藤　勉[1]、
小坂 隆司[2]、吉川 貴己[2]

1 横浜市立大学附属市民総合医療センター　消化器病センター外科
2 横浜市立大学医学部　消化管外科学
3 東京都立多摩総合医療センター　消化器・一般外科

R7-4　腹腔鏡下スリーブ状胃切除術の治療成績と持続可能な高度肥満症診療体制の課題

◯今井 義朗、田中　亮、松尾 謙太郎、吉本 秀郎、萩原 精太、李　相雄

大阪医科薬科大学　一般・消化器外科

R7-5　腹腔鏡下スリーブ状胃切除術後の体重リバウンド例における臨床的特徴の検討

◯宮崎 安弘、広田 将司、寺西 立冴、本告 正明、藤谷 和正、土岐 祐一郎

大阪急性期・総合医療センター　消化器外科

Lilly
A MEDICINE COMPANY

第 3 会場　3F　カンファレンスルーム A

レジェンドビデオセッション 2　9：00 ～ 10：00

司会：掛地 吉弘（兵庫県立がんセンター）

LV2　胃外科医が知るべきロボット支援膵頭十二指腸切除術

宇山 一朗
藤田医科大学　先端ロボット・内視鏡手術学講座

レジェンドビデオセッション 3　10：05 ～ 11：05

司会：松橋 延壽（岐阜大学　消化器外科・小児外科）

LV3-1　下部消化管領域における腹腔鏡下大動脈周囲リンパ節郭清

渡邉　純
関西医科大学　下部消化管外科学講座

司会：福永　哲（順天堂大学　上部消化管外科）

LV3-2　Fascia を極め、組織を守る手術へ
－SEAD と Fascia-Guided Surgery でめざす術後 QOL 向上－

大森　健
大阪けいさつ病院　消化器外科

レジェンドビデオセッション 4　11：10 ～ 12：10

司会：李　相雄（大阪医科薬科大学　一般・消化器外科）

LV4-1　微と美を追求したロボット支援膵頭十二指腸切除術における術野展開

永川 裕一
東京医科大学病院　消化器・小児外科学分野

司会：木下 敬弘（国立がん研究センター東病院　胃外科）

LV4-2　「美」を追求したソフト凝固シザーステクニック

山下 好人
医療法人徳洲会　東京本部

レジェンドビデオセッション 5　13：20 ～ 14：20

司会：佐伯 浩司（群馬大学　総合外科学講座　消化管外科学分野）

LV5-1　胸部へのいざない ～不得手を得てに～

山﨑　誠
関西医科大学　上部消化管外科

司会：藤原 義之（鳥取大学医学部　消化器・小児外科）

LV5-2　真の低侵襲を目指した術式開発

金谷 誠一郎
八尾徳洲会総合病院　外科

レジェンドビデオセッション 6　14：25 ～ 15：25

司会：吉川 貴己（横浜市立大学医学部　消化管外科）

LV6-1　食道胃接合部癌に対する Appetite-Preserving Gastrectomy（APG）

比企 直樹
北里大学医学部　上部消化管外科学

司会：稲木 紀幸（金沢大学医薬保健研究域医学系　消化管外科学／乳腺外科学）

LV6-2　美しい手術は機能的にも優れている

笠間 和典
四谷メディカルキューブ　減量・糖尿病外科センター

郭清手技ビデオ 2：膵上縁領域　16：05 ～ 16：50

司会：貝田 佐知子（滋賀医科大学　消化器・一般外科学講座）
　　三ツ井 崇司（帝京大学医学部　外科学講座）

VC2-1　野瀬 陽平
市立貝塚病院　消化器外科

VC2-2　大坪 琢磨
静岡県立静岡がんセンター　胃外科

VC2-3　西岡 歩美
奈良県総合医療センター　消化器・肝胆膵外科

VC2-4　國府田 華子
関西医科大学　上部消化管外科

VC2-5　藤林 勢世
岐阜市民病院　外科

VC2-6　山田 衣里佳
東京医科大学　消化器小児外科学分野

weck
Auto Endo5™
Automatic Hem-o-lok™ Clip Applier
医療機器承認番号：22400BZX00383000　販売名：Hem-o-lok クリップ



Hem-o-lok クリップ ML サイズ 15 発内蔵
アプライヤ先端部分の 3か所でクリップを保持するため、
安定性がより高まります

Teleflex、Teleflex のロゴ、Auto Endo5、Hem-o-lok、および Weck は、米国および / またはその他の国におけるテレフレックス社またはその関連会社の登録商標です。
© 2026 Teleflex Incorporated. 無断複写・複製・転載を禁じます。
Teleflex™
Empowering the future of healthcare